

平常展 「仏教美術の名品」

～10月12日(木)

本館

11月18日(土)～12月24日(日)

本館

月曜日休館

午前9時～午後4時30分

(入館は4時まで)

特別展 「第47回 正倉院展」

10月21日(土)～11月9日(木)

新館

会期中無休

午前9時～午後5時

(入館は4時30分まで)

〔写真解説〕

楽毅論(正倉院 北倉) 長126.6cm 幅25.4cm

標紙に「紫微中台御書」、巻末に「天平十六年十月三日藤原三娘」(藤原不比等の第三女の意)の墨書があることにより聖武天皇の妃光明皇后の自筆といわれている。料紙は縦に細かい押界線がある白紙を用い、軸には淡紫色の瑪瑙(めのう)を嵌めている。内容は中国・戦国時代の燕国の賢士であった楽毅の人となりについて評したものである。

特別展「第47回 正倉院展」

10月21日(土)～11月9日(休) 新館

「正倉院展」は、戦後まもない昭和21年に第1回の展観が行われ、今年で50周年を迎えます。その間、昭和24・34・56年の3回は東京で開催され、当館での展観は今年で47回を数えます。今回展観される宝物は、第1回正倉院展の出陳品33件をすべて含む総数75件（17点が初公開）です。内容は、調度、遊技具、飲食器、書跡、仏具、衣服、文書、経典など広い分野にわたっています。

まず、調度では、樹木や動物を染めの技法で表した「鳥木石夾^{とりき いしきょうけちのびょうぶ} 屏風^{びょうぶ}」、^ぶ「象木^{ぞうき}・羊木^{ひつじき}臈^{ろう}纈^{けち} 屏風^{びょうぶ}」があり、背面に螺鈿^{らでん}や玳瑁^{たいまい}（ベッコウ）・琥珀^{こはく}などで花文や一角犀^{いっかくぎ}・象^{ぞう}・鳥などを華麗に表した「平螺鈿背^{へいら でんはいのえんきよう} 円鏡^{えんきよう}」があります。飲食器では、カットガラスの手法で作られた「白瑠璃碗^{はくろり のわん}」や緑ガラスの酒杯^{りょくる りのじゅうにきょくちようはい}「緑瑠璃十二曲長坏^{りょくろり にじふにきょく ちようかい}」がはるか西域を彷彿させてくれます。書跡・絵画では、光明皇后の筆跡になる「楽毅論^{がくぎろん}」が雄渾な書風を伝え、大きな麻布に飛雲に乗る菩薩像を力動感あふれる筆使いで描いた「墨画仏像^{すみえのぶつぞう}」は奈良朝絵画の傑作です。仏具では、称徳天皇が東大寺行幸に際し献納された大きな「銀壺^{ぎんこ}」があり、「密陀彩絵箱^{みつださいえのはこ}」、「粉地彩絵八角几^{ふんじさい えのはつかく き}」といった献物箱や献物机は、いずれも華やかな文様や彩色で飾っています。この他、当時の役人たちが着けた麻布製の衣服や楽衣裳も注目されます。また戸籍、計帳などの公文書は当時の歴史を知る手がかりになります。

ことしもまた、天平文化の粋を伝える正倉院宝物をごゆっくり御観覧ください。



墨画仏像



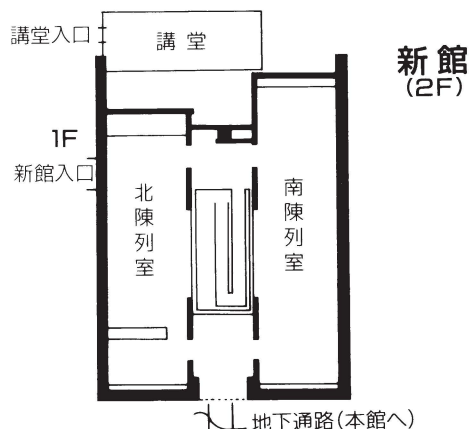
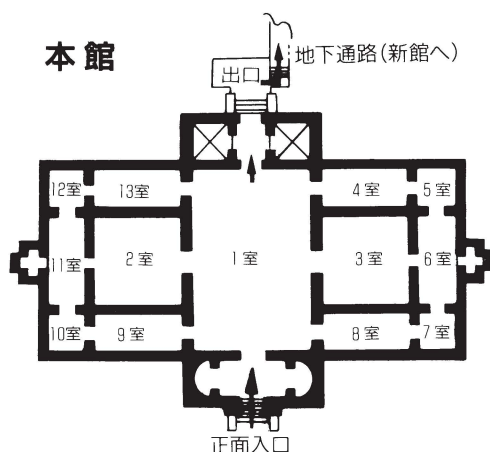
白瑠璃碗

平常展「仏教美術の名品」

～10月12日(休) 本館

11月18日(土)～12月24日(日) 本館

当館は、仏教美術を中心に展示を行なっています。当館では、わが国の仏教美術に関する多くの文化財を、収蔵・保管していますが、平常展ではそうした館藏品・寄託品の中から、国宝・重要文化財を含む多数の仏教関係の優品を展示します。仏教が伝来した飛鳥時代から連綿と続く多彩な美術をごゆっくり御鑑賞下さい。なお、今期は新館が改修工事のため閉館しており、本館において、各種の仏像の時代別展示と、寺院出土の遺物や瓦、経塚遺物など、彫刻と考古部門の展示をします。



(ミュージアムショップは1階東側、ハイビジョンギャラリーは入口西側にあります)

主な展示品

本館		新館
十月	彫刻	考古
	10月1日(日)～ 1、2、9～13室	10月1日(日)～
	【飛鳥時代】◎銅造誕生釈迦仏像（正眼寺）、◎銅造弥勒菩薩半跏像（神野寺）、◎銅造観音菩薩立像（法起寺）【白鳳時代】◎銅造観音菩薩立像（金剛寺）、◎木心乾漆義淵僧正坐像（岡寺）<写真>、◎木心乾漆阿閼如来坐像（西大寺）、◎伎楽面（東大寺）【平安時代】◎木造十一面観音立像（地福寺）、◎木造薬師如来立像（元興寺）、◎木造如意輪観音坐像（当館）、◎木造十一面観音立像（勝林寺）、◎木造日羅立像（橘寺）、◎木造十一面観音立像（当館）、◎木造十一面観音立像（海住山寺）、◎木造弥勒仏坐像（東大寺）、◎木造阿弥陀如来坐像（当麻寺）、◎木造金剛力士立像（財賀寺）、◎木造十二神将立像（東大寺）、●木造板彫十二神将	10月1日(日)～
十一月	10月13日(金)～11月17日(金)	展示替等のため休館
	像（興福寺）、◎木造阿弥陀如来坐像（東大寺）、木造地藏・竜樹菩薩坐像（当館）、◎舞楽面（手向山神社）【鎌倉時代】●木造法相六祖坐像のうち行賀像（興福寺）、◎木造多聞天立像（当館）、◎木造広目天立像（興福寺）、木造弥勒菩薩像（林小路町）、◎木造地藏菩薩立像（東大寺）、◎木造地藏菩薩立像（長命寺）、◎木造地藏菩薩立像（春覚寺）、◎木造愛染明王坐像（当館）、銅造不動明王立像（天ヶ瀬組）、◎木造千手観音立像（妙法院）、◎木造馬頭観音立像（浄瑠璃寺）、◎木造釈迦如来坐像（東大寺）、木造如意輪観音坐像（当館）、木造大黒天立像（当館）、木造四天王立像（霊山寺）、◎木造閻魔王倚像（金剛山寺）、◎木造聖徳太子立像（成福寺）、◎銅造阿弥陀如来立像（善光寺）	出土鬼面文鬼瓦(当館)、放光寺出土鬼面文鬼瓦、秋篠寺出土鬼面文鬼瓦、愛知・社山古窯出土鬼面文鬼瓦、和歌山・上野廃寺出土隅木蓋瓦（当館）、山田寺出土極先瓦（当館）、大阪・新堂廃寺出土極先瓦（大阪府教委）、橿池廃寺出土極先瓦〔6室東〕埴製如来坐像仏龕（当館）、方形阿弥陀三尊埴仏（当館）、橘寺出土方形三尊埴仏（当館）、川原寺裏山出土方形三尊埴仏(明日香村)、南法華寺出土方形三尊埴仏（南法華寺）、橘寺出土火頭形三尊埴仏（当館）、○三重・天花寺出土方形三尊埴仏（当館）、三重・夏見廃寺出土埴仏（当館）、山田寺出土埴仏（当館）〔3室〕◎鳳凰埴（南法華寺）、川原寺裏山出土緑釉埴（明日香村）、東大寺二月堂附近出土緑釉埴、●東大寺金堂鎮壇具(東大寺)、◎元興寺五重塔鎮壇具（元興寺）、霊安寺塔跡鎮壇具（当館）、定林寺出土塑像菩薩像頭部（当館）、川原寺裏山出土塑像頭部（明日香村）、本薬師寺出土塑像頭部（薬師寺）、滋賀・雪野寺出土塑像断片、鳥取・斎尾廃寺出土塑像断片（当館）、◎石製九輪附金銅風鐸（円証寺）、和歌山・上野廃寺出土金銅風鐸（当館）、●粟原寺伏鉢（談山神社）〔6室西〕群馬・苗ヶ島古墓出土品（当館）、陶製骨壺附和銅開珎、平瓶形骨蔵器（当館）、◎出雲萩杼古墓出土品（当館）、◎青磁鉢附瓦製鉢（正暦寺）〔7室〕◎金峯山経塚出土鍍銀経箱（金峯神社）、銅経筒（平治元年銘）（当館）、●三重・朝熊山経ヶ峯経塚出土品（金剛証寺）、瑠璃鈕銅宝幢形経筒（当館）、瑠璃鈕銅板製経筒（当館）、銅経筒（当館）、飛鳥文陶製外筒（当館）、○東京・松蓮寺経塚出土銅経筒（長寛元年銘）（当館）、同上銅経筒（永万元年銘）（当館）、同上銅経筒（建久4年銘）（当館）〔8室〕◎藤原道長願経（金峯神社）、◎和歌山・王子神社経塚出土紙本墨書法華経（王子神社）、伝大分県出土紙本朱書法華経（当館）、◎銅板法華経（長安寺）、福岡・飯盛山経塚出土瓦経（当館）、金銅水滴（当館）、銅合子（当館）、経塚出土鏡（当館）、青白磁合子・壺（当館）、金銅六器・花瓶・独鈷・合子（当館）、経塚遺物一括（銅経筒、陶製甕、青白磁合子、和鏡、刀子）（当館）、◎伝福岡県出土経塚遺物(当館)、伝和歌山・白浜経塚出土品（当館）
	12月25日(月)～1月3日(水)は休館 展示替等のため一部閉室する場合があります。	
十二月		

●国宝、◎重要文化財。 展示品は都合により一部変更する場合があります。

～10月20日(金) 陳列替のため休館

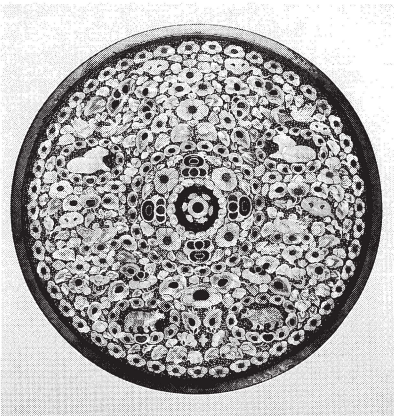
第47回 正倉院展 10月21日(土)～11月9日(休)

鳥木石 夾 纈 屏風 (板締染めの屏風)、* 鳥草 夾 纈 屏風 (板締染めの屏風)、* 象木 縹 纈 屏風 (ろうけつ染めの屏風)、* 羊木 縹 纈 屏風 (ろうけつ染めの屏風)、* 麻布 山水 図、* 紅牙 撥 鏝 尺 (染め象牙のものさし)、* 紫檀 木 画 双 六 局 (すごろく盤)、* 天平 寶 字 二 年 六 月 一 日 献 物 帳 (大 小 王 真 跡 帳)、* 楽 毅 論 (光明皇后御書)、* 詩 序 (王勃の文集)、* 犀 角 把 白 銀 葛 形 鞆 珠 玉 莊 刀 子 (小刀)、* 青 斑 石 硯、* 墨、* 明 皇 后 御 書、* 詩 序 (王勃の文集)、* 犀 角 把 白 銀 葛 形 鞆 珠 玉 莊 刀 子 (小刀)、* 青 斑 石 硯、* 墨、* 筆、* 墨 画 仏 像 (麻布菩薩)、* 仏 像 型、* 漆 金 銀 絵 仏 龕 扉 (厨子の扉)、* 銀 壺、* 赤 銅 柄 香 炉、* 玳 瑁 竹 形 如 意 (ベッコウの如意)、* 密 陀 彩 絵 箱、* 密 陀 絵 皮 箱、* 蘇 芳 地 金 銀 絵 箱、* 粉 地 彩 絵 八 角 几、* 金 銅 幡、古 櫃、慶 長 櫃、紺 地 錦 幡、* 孔 雀 文 刺 繡 幡 残 欠、錦 縁 飾 残 欠、大 幡 垂 脚 端 飾 錦、* 花 氈、布 袍 (布のうわぎ)、布 衫 (布のしたぎ)、貫 頭 布 衫 (布のしたぎ)、布 早 袖 (布の肩覆い)、布 半 臂 (布の胴着)、布 前 袋 (布の前掛け)、布 袴、白 絶 腕 貫 (絹の腕カバー)、女 舞 接 腰 (錦の足覆い)、布 襪 (布のくつした)、布 襪 (布のくつした)、* 金 銀 山 水 八 卦 背 八 花 形 鏡 (銀貼りの鏡)、* 銀 平 脱 八 花 形 鏡 箱、* 平 螺 鈿 背 円 鏡 (らでんの鏡)、* 漆 胡 樽 (西域風の水瓶)、* 緑 瑠 璃 十 二 曲 長 环 (色ガラスのさかずき)、* 白 瑠 璃 碗 (カットグラスの碗)、伎 楽 面 呉 女、伎 楽 面 醉 胡 従、伎 楽 面 崑 崙、伎 楽 面 呉 公、正 倉 院 古 文 書 正 集 第三卷 (大 粮 申 請 文 書)、正 倉 院 古 文 書 正 集 第 八 卷 (具 注 曆)、正 倉 院 古 文 書 正 集 第 二 十 五 卷 (御 野 国 山 方 郡 三 井 田 里 戸 籍)、正 倉 院 古 文 書 正 集 第 三 十 五 卷 (備 中 国 大 税 負 死 亡 人 帳 ほか)、続 修 正 倉 院 古 文 書 第 七 卷 (豊 前 国 仲 津 郡 丁 里 戸 籍)、続 修 正 倉 院 古 文 書 第 九 卷 (近 江 国 志 何 郡 計 帳 手 実)、続 修 正 倉 院 古 文 書 第 十 六 卷 (皇 后 宮 職 移 ほか)、続 修 正 倉 院 古 文 書 後 集 第 三 十 二 卷 (田 上 鑑 懸 山 作 所 告 朔 解)、続 修 正 倉 院 古 文 書 別 集 第 十 卷 (大 安 寺 三 綱 牒 ほか)、続 々 修 正 倉 院 古 文 書 第 四 十 六 帙 第 五 卷 (人 名 雑 文)、東 南 院 古 文 書 第 三 櫃 第 十 一 卷 (越 前 国 使 解)、賢 劫 経 卷 第 一 (隋 経)、四 分 律 卷 第 十 九 (唐 経)、四 分 律 卷 第 二 十 一 (光 明 皇 后 御 願 経)、菩 薩 投 身 餓 虎 起 塔 因 縁 経 (称 徳 天 皇 勅 願 経)、法 華 決 沢 記 卷 第 四

*印は第1回正倉院展(昭和21年)出陳品を示します



密陀彩絵箱



平螺鈿背円鏡

11月10日(金)～ 改修工事のため休館

50周年を迎えた「正倉院展」

―第1回 正倉院展のこと―

正倉院展は、いまや古都奈良の恒例行事となっていますが、記念すべき第1回正倉院展は、戦後もない昭和21年（1946）に行われました。昭和時代に入って、「皇紀紀元二千六百年記念」として、昭和15年に東京で公開されることはありましたが、通常一般に公開されることはなく、毎秋に勅封を解き曝涼（虫干し）をする際には、従五位以上の者や一部の研究者などごく限られた者のみが拝観を許されていました。

そして、太平洋戦争の戦局が拡大するにつれ、曝涼も一時中止を余儀なくされ、また宝物も疎開して安全をはかるため梱包が進められ、その一部は博物館へも移送されていました。苦難にみちた時代です。

やがて、太平洋戦争が日本の敗戦で終結した昭和20年12月には奈良帝室博物館の展観が再開されました。（この展観再開に関しては、「たより」第12号を参照）。宝庫の曝涼も再開され、新しい時代の幕開けとともに、正倉院宝物を一般に公開して欲しいと言う声も高まったようです。2月8日付けの「朝日新聞奈良版」の記事には「この際、宮内省は英断をもって一部御物を奈良帝室博物館に常時出陳、時には陳列替へも行なって官等のみによる拝観の制限を一般に開放すべきだとの意見」が奈良の地元の有力者の間におこり、近く奈良帝室博物館長兼正倉院監理署長に要望することになったと伝えています。また、5月には奈良県観光連合総会で、宮内大臣宛の要望書も提出されるに至りました。そして、宮内省もついに同年9月上旬正倉院展の開催を決定したのです。

このようにして始まった正倉院展は、今年で開催50周年を迎えます。この間、昭和24・34・56年の3回は東京国立博物館で開かれましたから、奈良国立博物館での展観は今年で47回目ということになります。

さて、第1回正倉院展は、昭和21年10月19日から11月9日までの21日間にわたって開催されました。このうち19日は特別招待日、20日は進駐軍招待日、10月28日と11月4日は休館日。開館時間は午前9時から午後3時まで。入場料は大人2円、小人1円でした。また、校倉も第二会場として軒下まで開放して公開されました。

出陳された宝物は、北倉から8件、中倉から14件、南倉から11件の計33件で、会場は現在の本館展示室です。その出陳品については、リストの＊印のとおりです。

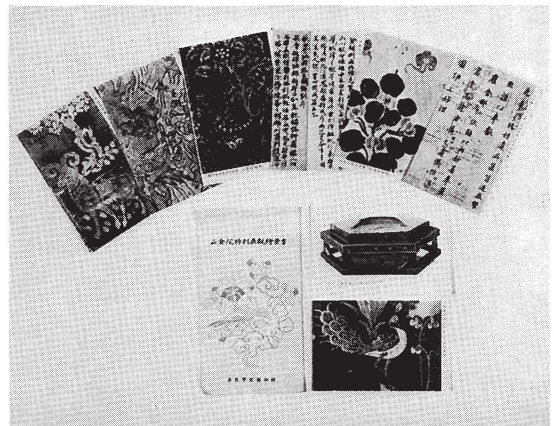
はじめて行われた正倉院宝物の一般公開は、すぐに全国的な話題となり、観覧しようとする人々が各地から奈良に集まりました。戦後の混乱期のこと、旅館では食事は提供されず、素泊を原則としていたようでしたが、予約が殺到し、10月10日前後にはほぼ満室に近い状態であったそうです。

一般公開は大盛況で、第一日は5000名余の入館者を迎え、混雑のため午後2時には入場券の発売が中止されるほどで、27日の日曜日には7726名、翌28日は10376名に達しました。また、10月28日の休館日には、女学校・青年学校の生徒1350名、11月4日には国民学校（今の小学校）6年生以上の児童2266名の観覧が行なわれました。こうして11月9日無事閉会しましたが、入館者は招待者を含め15万人にものほりました。これは奈良帝室博物館の過去10年間の入館者にほぼ匹敵するものであったといい、そのことから正倉院展がいかに国民の関心を引き付け、人気を呼んだかが理解できるでしょう。

その後、昭和22年には、奈良帝室博物館は、文部省に移管して国立博物館奈良分館となりました。ここで、博物館と正倉院の所管が分かれたため、第2回正倉院展は、現行の両機関協力してのはじめての開催となりました。そして現在まで、古都の秋を彩る恒例の展観として、親しまれているのです。



第1回 正倉院展目録（昭和21年）



第1回 正倉院展絵葉書（昭和21年）

正倉院展講座

10月21日(土)	正倉院文書研究の現在	東京大学史料編纂所教授	石上 英一
10月25日(水)	正倉院の幡について	当館客員研究員・元宮内庁正倉院事務所保存課長	松本 包夫
10月28日(土)	戦後五十年と正倉院展	宮内庁正倉院事務所長	米田 雄介
11月1日(水)	奈良朝工芸に見る魚々子の諸相	当館工芸室長	阪田 宗彦
11月4日(土)	アジアの中の正倉院宝物	奈良県立橿原考古学研究所長	樋口 隆康

午後1時30分より、講堂で開催。午後1時開場、先着120名。聴講無料。

ギャラリートーク

12月13日(水)	「平安前期の彫刻」	美術室研究員	礪波 恵昭
-----------	-----------	--------	-------

午後2時より、陳列室で開催。入館者は自由に聴講できます。

親と子の文化財教室

平成7年度〈平安時代の歴史と美術〉	主催・当館	後援・奈良県教育委員会
10月14日(土)「絵巻物のはなし」	学芸課長	河原 由雄
11月11日(土)「阿弥陀さまとその世界」	主任研究官	井上 一穂
12月9日(土)「平安人の書と文字」	主任研究官	西山 厚
1月13日(土)「経塚 平安時代のタイムカプセル」	考古室長	井口 喜晴

〈対象〉小学5・6年生、中学生および保護者等。児童・生徒のみの参加及び定員に余裕のある場合は高校生の参加も可。

〈時間〉午前10時から12時。

〈場所〉当館講堂・展示室ほか（現地見学もあります）。

〈定員〉50名（先着順）。

〈参加費〉無料（入館料とも）。

ただし見学科金が必要な場合があります。

〈申込方法〉往復はがき（または電話）で、住所・氏名・学校名・学年・電話番号・同伴する保護者等の氏名・実施日とを記入のうえ、〒630 奈良市登大路町50 奈良国立博物館 親と子の文化財教室係 ☎0742-22-7771までお申し込み下さい。



ハイビジョンギャラリー（新館1階ロビー）

ハイビジョンによる臨場感あふれるクリアな映像と、わかりやすい解説で文化財の紹介をしています。現在、「奈良国立博物館の名品」を、彫刻・絵画・工芸・考古・書跡の各分野で製作を進めており、順次放映してゆく予定です。

八窓庵茶室の公開

〈公開日〉新館開館中の毎週木曜日（ただし雨天の場合は公開しません。）

〈公開時間〉午前10時より午後3時まで（入館者は自由に見学して頂けます。新館南側の扉よりお進み下さい。）なお、茶室の使用については、当館管理課までお問い合わせ下さい。

開館時間 午前9時より午後4時30分まで（入館は午後4時まで）

休館日 月曜日（月曜日が祝日または振替休日の場合は開館し、翌火曜日が休館）

観覧料金 毎月第2・4土曜日は、小・中学生無料（正倉院展・共催展等を除く）。

正倉院展		大人	高・大生	小・中生
	一般	790	450	250
	団体	530	250	130

平常展		大人	高・大生	小・中生
	一般	400	130	70
	団体	200	70	40

（団体は責任者が引率する20名以上。ただし正倉院展は、土・日・祝日は団体の取扱いを致しません）。

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月の各1日に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し返信用封筒（80円切手貼付、宛名明記）を同封して、当館の普及室にお申し込み下さい。